

はじめに

今年(1945年)の太平洋戦争敗戦から70年を迎える。ここで改めて「終戦」と言わず「敗戦」というには理由がある。言葉とは恐ろしいもので、勝手に一人歩きしてしまう。終戦というと、太平洋大戦が終わったことになり、日本が重大な過ちを犯して、300万人の尊い人命を失い、国土のほとんどを焼土にしてしまったという、大失敗をした事実が薄れてしまう。

一方、敗戦といえどいつの時代になっても、敗れたのであって原因があることが明らかになる。敗戦後70年の間に、太平洋戦争での戦闘についての多くの本が出版された。

しかし、これ等の本は戦争の悲惨さを後世に伝えるために書かれたもの、戦いの経過を書いた戦記物が多く、敗れた原因を分析して現代に活かす提言を行ったものは少ない。本書は実際にサイパン島の戦いで戦った日米4人の兵士達の目線で書かれた記録に基づいてサイパン島の戦いの細部を明らかにし、更に日本国としての敗因を分析しようとするものである。

何故、敗戦の1945年の前年6月のサイパン島の戦いに注目すべきなのか、理由は次の通りである。日本は、1941年12月8日のハワイ・オアフ島の米海軍基地であるパールハーバーの奇襲に成功し、その後も南方戦線まで破竹の勢いで勝ち続け、全国民の熱狂の中に、北はアリューシャン列島から、中国の満州、南方にまで戦線を広げてしまった。

しかし、兵站(ロジスティクス)の能力不足のため、1943年後半から旗色が悪くなってきた。そして1943年11月のタラワ島の陥落し、1944年6月には日本まで2400kmのサイパン島が陥落した。この2400kmの距離が、当時開発が終わったばかりの航続距離6000kmのB29という爆撃機が日本本土に対して無給油での爆撃を可能にしたのである。そして、このB29が一年後の1945年8月に、開発が終わったばかりの原子爆弾を載せて飛来し広島・長崎に原爆を落とした。

もし、当時の日本における戦争指導部がこのサイパン島の地理的な重要性を理解し、戦艦大和で代表される戦艦の戦いの時代から、航空機の戦いに変わっていたことに気が付いていれば、サイパン島を決戦の場としてもっと多くの兵器と兵士を集中配備しておいた筈である。

ところが実際に起きたことは、サイパン島陥落の1944年になるまでは、当時の日本軍の縦割り組織のため、陸軍は「サイパン島は海軍に任せておけ」として、サイパン島に陸軍を配置していなかった。1944年になりサイパン島の重要性に気づき、急遽陸軍を送ったが、すでに制海権は米国が持ち、多くの輸送船が米軍の魚雷で沈められ、兵員・兵器・弾薬の補給はできなかった。

この結果、第3章のサイパン島の戦いでの日米の兵士の証言にあるように、日米の戦力の差は圧倒的なもので、とても精神力でカバーできるものではなかった。

本書は、サイパン島の戦いでの日米の兵士の証言で明らかにするだけでなく、兵士達はどうして兵士になり、何を考えて戦っていたのかも明らかにしたい。更に、本書ではなぜ300万人もの日本人が犠牲になったのかも明らかにしたい。

この2400kmの距離が、当時開発が終わったばかりの航続距離6000kmのB29という爆撃機が日本本土に対して無給油での爆撃を可能にしたのである。そして、このB29が一年後の1945年8月に、開発が終わったばかりの原子爆弾を載せて飛来し広島・長崎に原爆を落とした。

もし、当時の日本における戦争指導部がこのサイパン島の地理的な重要性を理解し、戦艦大和で代表される戦艦の戦いの時代から、航空機の戦いに変わっていたことに気が付いていれば、サイパン島を決戦の場としてもっと多くの兵器と兵士を集中配備しておいた筈である。

ところが実際に起きたことは、サイパン島陥落の1944年になるまでは、当時の日本軍の縦割り組織のため、陸軍は「サイパン島は海軍に任せておけ」として、サイパン島に陸軍を配置していなかった。1944年になりサイパン島の重要性に気づき、急遽陸軍を送ったが、すでに制海権は米国が持ち、多くの輸送船が米軍の魚雷で沈められ、兵員・兵器・弾薬の補給はできなかった。

この結果、第3章のサイパン島の戦いでの日米の兵士の証言にあるように、日米の戦力の差は圧倒的なもので、とても精神力でカバーできるものではなかった。

本書は、サイパン島の戦いでの日米の兵士の証言で明らかにするだけでなく、兵士達はどうして兵士になり、何を考えて戦っていたのかも明らかにしたい。更に、本書ではなぜ300万人もの日本人が犠牲になったのかも明らかにしたい。

この2400kmの距離が、当時開発が終わったばかりの航続距離6000kmのB29という爆撃機が日本本土に対して無給油での爆撃を可能にしたのである。そして、このB29が一年後の1945年8月に、開発が終わったばかりの原子爆弾を載せて飛来し広島・長崎に原爆を落とした。

もし、当時の日本における戦争指導部がこのサイパン島の地理的な重要性を理解し、戦艦大和で代表される戦艦の戦いの時代から、航空機の戦いに変わっていたことに気が付いていれば、サイパン島を決戦の場としてもっと多くの兵器と兵士を集中配備しておいた筈である。